

AICHI
PREFECTURAL
MUSEUM
OF
ART

MEMBERSHIP

愛知県美術館友の会・会報 第39号

空中回廊

この企画展でデュフィを再発見! [デュフィ展] / 会員のひろば
/ 愛知県美術館から [新学芸員の紹介] / 愛知県美術館
コレクションから [鈴木其一《林檎図》] / 友の会活動紹介



○この企画展でデュフィを再発見!

デュフィ展

10月9日(木) から 12月7日(日) まで開催

今回の展覧会は、デュフィの芸術家としての再評価の機会となることを目指しています。展覧会の構成は初期から晩年にかけて4章に分かれており、多種多様にわたる約150作品が展示されます。

デュフィについて

ラウル・デュフィは、20世紀前半にフランスで活躍した画家です。

軽快なタッチと明るい色彩の作品は日本では人気が高く、何度も展覧会が開催されました。しかし欧米では、同時代のピカソやマティスといった芸術家たちに比べると評価が高まらず、そのためデュフィの本質に迫る研究というのは、あまり行われていませんでした。どの作品も一見、容易に描かれているように思われるのですが、実は優れた、繊細な感覚に研ぎ澄まされたデッサンを多く残しています。本展覧会ではデュフィのデッサン画が展示されますので、軽快な油彩画と見比べてみても面白いのではないのでしょうか。

技術的に非常に卓越したデッサンのよどみなさを、デュフィは時には制御することがありました。そこで彼は、あえて利き手ではない左手で描くという手法をとったというエピソードがあります。



《トゥール・ヴィルのポスター》1906年 油彩、カンヴァス
パリ国立近代美術館、ポンピドゥー・センター
©Centre Pompidou, MNAM-CCI, Dist. RMN-Grand Palais
/ Philippe Migeat / distributed by AMF

多彩な芸術家

第2章、第3章では、デュフィの活躍の場が絵画にとどまらず、装飾や服飾、テキスタイル、版画や陶器、家具といった世界にまで広がっていることをご確認いただけます。彼の優れた色彩感覚と軽快な線はどの分野においても新鮮な魅力を生み出し、多くの人々を魅了していったのです。



ツィマーマン《ドレス》1922年頃
公益財団法人京都服飾文化研究財団 島山崇撮影

おすすめの作品

1920-30年代の作品が展示される第3章では、デュフィの代表作の一つ《馬に乗ったケスラー一家》をご覧いただけます。これは、澄んだ青色の背景が特



《ニースの窓辺》1928年 油彩、カンヴァス 島根県立美術館

微的で、観る人を圧倒する大作です(高さ約2m、幅約2.7m)。大変に貴重なこの作品は、ロンドンのテートの協力を得て、展示を実現することができました。テートでも常に展示しているわけではありません。この機会にぜひご覧いただきたい作品です。



《サンタドレスの浜辺》1906年 油彩、カンヴァス 愛知県美術館

今回、森学芸員にお話を伺いました。デュフィが努力家であり好奇心に満ちあふれた画家であることを知り、不思議と親しみを覚えてしまいました。また、展



《ヴァイオリンのある静物：パッサへのオマージュ》1952年 油彩、カンヴァス パリ国立近代美術館、ポンピドゥー・センター ©Centre Pompidou, MNAM-CCI, Dist. RMN-Grand Palais / Jean-Claude Planchet / distributed by AMF

覧会開催にあたり森学芸員が苦勞されたエピソードも、お聞きすることができました。(大矢 真美代)

※この記事は本展覧会を担当された森学芸員へのインタビューをもとに構成しました。

次回展覧会 ロイヤル・アカデミー展

2015年2月3日(火)～4月5日(日)

イギリス美術の真髄をたっぷりと

「ラファエル前派」展や「英国の唯美主義」展が開かれた今年は、(普段はイタリアやフランスの陰に隠れている)イギリス美術の当たり年と言えます。そしてその掉尾を飾るのが、このロイヤル・アカデミー展です。最高の実力を認められた少数の芸術家だけが会員になれるこのアカデミーは、芸術家の生活を支援するために設立され、美術学校を併設し、250年近い歴史の中でターナーやカンスタブル、ミレイといった偉大な画家たちがアカデミーに名を連ねてきました。

各会員は力量を示すための作品をアカデミーに提出することになっており、その蓄積がロイヤル・アカデミーのコレクションを形成しています。このコレクションの中から約90点の作品を厳選してお見せするこの展覧会は、まさにイギリス美術のハイライトというべきものです。《世界の若かりし頃》で皆さんにも馴染み深いポインターの作品も来日しますので、是非ご期待ください。

(学芸員 石崎尚)



ジョン・エヴァレット・ミレイ《ベラスケスの想い出》1868年 油彩・カンヴァス ©Royal Academy of Arts, London; Photographer: John Hammond

◎友の会20周年記念懇親会

6月26日、美術館友の会として5年ぶりとなる、懇親会が開かれました。

懇親会は、会員同士、また会員と学芸員とが、食事、飲み物(もちろん酒類も)を囲みながら気軽に話せて楽しく交流できる場です。以前は毎年のように開かれる恒例行事だったのですが、近年はバスツアーも人気で、開催のチャンスに恵まれませんでした。しかし、「やっぱり懇親会もやってほしい」との要望もあり、友の会20周年記念事業の一環として開催する運びとなりました。

当日は10階のレストラン「ウルフギャング・パック」を会場に、50名以上の会員に加え、館長はじめ美術館関係者も出席されました。会の途中、学芸員を紹介したり、「豪華賞品」をかけた抽選会をしたりというのは、これまでの懇親会でもよく聞かれた話。今回はなにせ「20周年記念」です。いつもと同じでは芸がありません。という訳で特別ゲストの登場です。愛知県美術館初代館長の浅野さん、2代目館長で島根県立美術館館長をさ



学芸員の紹介をする村田館長



会食の様子



挨拶をされる浅野さん(初代館長)、左は2代目館長長谷川さん

れている長谷川さんには遠路はるばるご来場いただきました。挨拶をお願いしたお二人が口をそれえて「私が知らない会員が増えた。それは友の会が栄えている証拠であり嬉しい。」と仰っていたのが印象的でした。他にも、県美術館で学芸員をされていた方々も、ゲストとしてご来場いただきました。

会場を見渡してみると、講座やバスツアーではあ



高橋副館長を囲んで

まりお見かけしない会員の方も多くいらっしゃいました。友の会として、いろいろな行事を企画していくことの重要性を認識させられました。

(M.K.)

新学芸員の紹介

◇越後谷卓司主任学芸員◇

愛知芸術文化センター開館の前年となる1991年に採用され、愛知県文化情報センターの学芸員として映像事業を担当してきました。今年度より、愛知県芸術劇場の運営等を、公益財団法人愛知県文化振興事業団が指定管理者として行うこととなり、文化情報センターが企画していたコンテンポラリー・ダンスや現代音楽などの公演は事業団が、映像事業は愛知県美術館が、それぞれ引き継ぐことになり、この4月より美術館に籍を移すことになりました。

美術館では「アートフィルム・フェスティバル」の開催や、「オリジナル映像作品」の制作など、文化情報センターで行っていた事業を引き続き行うとともに、2010年と13年の「あいちトリエンナーレ」映像プログラムを担当した経験も活かして、美術における映像メディアを用いた表現にも関わってゆければ、と思っています。



◇中野悠学芸員◇

4月より愛知県美術館に勤務しています。兵庫県で生まれ育ち、大学時代から今年の3月に名古屋に移ってくるまでは大阪に住んでいました。愛知県美術館のような大きな施設が職場となり、まだまだ戸惑うことの多い日々を過ごしています。ですが、観覧者としてこの美術館を訪れていたときにはわからなかったこと一どのようにコレクションを形成し、作品を保存管理し、調査研究を進めているのか。どのように展覧会を企画し、準備し、開催しているのか。その過程に、どれほど多くの人に関わっているのかーが徐々に見えてくる日々でもあり、とても新鮮です。これから、芸術との出会いの場のひとつである美術館で、作家や作品と、鑑賞者との間をつなぐ懸け橋になればと思っております。どうぞよろしく願いいたします。



愛知県美術館友の会は、団体も入会していただくことができます。現在ご入会いただいている団体は、名古屋芸術大学、株式会社MARUWAの2団体です。ご協力ありがとうございます。



名古屋芸術大学

大学院音楽研究科/音楽学部/人間発達学部
〒481-8503 愛知県北名古屋市熊之庄古井281番地
TEL 0568124-0315 FAX 0568124-0317

大学院美術研究科/美術学部

〒481-8535 愛知県北名古屋市徳重西沼65番地
TEL 0568124-0325 FAX 0568124-0326

大学院デザイン研究科/デザイン学部

〒481-8535 愛知県北名古屋市徳重西沼65番地
TEL 0568124-0325 FAX 0568124-0326



株式会社 MARUWA

〒488-0044 愛知県尾張旭市南本地ヶ原町三丁目83番地
TEL (0561) 51-0841
<http://www.maruwa-g.com>

株式会社 MARUWA SHOMEI

〒110-0015 東京都台東区東上野一丁目1番12号栗橋ビル
TEL (03) 5812-0870
<http://www.maruwa-shomei.com>

株式会社 MARUWA QUARTZ

〒963-7704 福島県田村郡三春町大字熊耳字大平7-1
TEL (0247) 62-0012
<http://www.maruwa-g.com>

○愛知県美術館コレクションから一深く知ると、もっとみえてくる○

鈴木其一《林檎図》 木村定三コレクション

(編) ここでご紹介する所蔵作品《林檎図》を、本会報表紙に掲載しました。

19世紀前半の江戸で、酒井抱一は京都の俵屋宗達(16世紀前半)や尾形光琳(18世紀前半)たちのデザイン性・装飾性の豊かな絵画に魅了され、そこに写実性と洗練を加えて、後に「江戸琳派」と呼ばれる様式を確立しました。鈴木其一は抱一の弟子で、特に抱一の没後に嚙々と号した30~40代の作品はダイナミックで奇抜な構成と明快な色彩をもち、近年注目を集めています。

《林檎図》は署名にある菁々と号した晩年59歳頃の作品で、花と実をつけた林檎の木が写実的に描かれています。中国には南宋時代の《林檎花図》(国宝、畠山記念館蔵)がありますが、江戸時代までの日本で林檎の木を描いた絵画は珍しいものです。

様々な方向に伸びた葉には立体感のある濃淡が付けられ、表裏も描き分けられています。葉のやや暗い緑色に対して、薄桃色から白の花びらや目に染みるように赤いつぼみが無垢な若さを感じさせ、小さな実(当時の林檎は直径3~4cm)は青みを帯びた薄緑から半分ほど赤く色づいて可憐です。またこれらの細密な描写に対して、右端の幹には宗達が始めた琳派得意の技法「たらし込み」(乾く前の墨や絵具を重ねてむらを出す)を用いて、全体を雅にまとめています。

以上は普通の解説ですが、花と実の両方がついた林檎を見たことがおありでしょうか?気になって調べてみたところ、林檎の品種と栽培地の違いを含めても花は4月~6月、実は8月~11月のようです(実の時期に暖かだと春と間違え花が咲くことが稀にあるそうですが)。

嚙々時代の《蔬菜群虫図》(出光美術館蔵)では胡瓜と茄子の葉と花、大小の実がリズムカルに組み合わせられています。胡瓜と茄子なら現実にも花と実が同時に見られますが、其一はこうした組み合わせの効果を生かすでも用いたいと考えたのかもしれない。また、《青桐・紅楓図》(プライスコレクション)など

対幅での季節対比を一幅にこめたものとも言えるでしょう。

林檎の花は初めに「中心花」と呼ばれる一輪が咲き、それを放射状に囲む「側花」が順に開いて十日ほどで散り始めるのですが、《林檎図》では花は中心花だけ、実は未熟でも完熟でもない一時期だけが選ばれて、美しさと命の初々しさが表されているのです。気づいてみると、其一の鋭敏な季節感覚と、非現実を事実一むしろ真実のように描き出す技量に感嘆させられます。



鈴木其一《林檎図》1855(安政2)年賛

(美術課長 深山 孝彰)

※《林檎図》は来年夏からの当館企画展に出品される予定です。

■学芸員の横顔

深山孝彰(みやま・たかあき)
石川県金沢市出身。美術館準備室時代の昭和63年からいます。
近頃の休日は美術館巡りもせず2歳の娘と楽しく過ごしています。





AICHI
PREFECTURAL
MUSEUM
OF
ART

MEMBERSHIP

理事会から

本年度の定期総会が5月25日に開催され、議案がすべて承認されました。今年度は友の会設立20周年にあたり、コンサートや懇親会、連続講座などの記念事業が、多くの会員から賛辞を受けて実施されてきています。

館長からは、これまで積み上げられてきた実績について、あちこちから高い評価を得ていることなどのお話もありました。収蔵作品管理サポート部の活動については、多くの関係者が注目をしており、2月末には九州地区からIPM関係の多くの方々が見学のために訪問されました。また、会報「空中回廊」もさまざまな広報の役目を担って美術館の指導のもとに友の会の編集部が制作・発行しています。

展覧会での特別鑑賞会をはじめ、会員の楽しみとしての「友の会講座」や「バスツアー」なども、より一層充実したものになりたいと考えています。ともに楽しむ仲間が増えるよう皆様のご協力をお願いいたします。



ボランティア交流会の様子 名古屋ダブルリードアンサンブル
(友の会会長 小林克敏)

友の会活動紹介

期間 2014年2月-9月

★中面で紹介

2月 ボランティア交流会

「印象派を超えて」展

3月 特別鑑賞会(昼・夜)



解説は、今回の企画展を担当された中西園子学芸員。分割主義からインスピレーションを与えられたモンドリアンの抽象絵画など、スーラが果たした役割の大きさには驚かされました。(T.K.)

3月 友の会講座(齊藤吾朗氏 画家(独立美術協会会員))

「モナ・リザの模写から」



「ルーヴル美術館の名画を母に見せたい一心で模写に挑戦しました」とにごやかに話された後、8階に移動。最新作《熱田神宮・創祀千九百年》の前で楽しい解説。創作には一途な気持ちが大切だと感じた時間でした。(H.A.)

「シャガール展」

4月 特別鑑賞会(昼・夜)



会場は天井画下絵、ステンドグラスや舞台衣装等々鮮やかに彩られた作品に囲まれ、華やかな雰囲気の中開催されました。石崎学芸員のお話もたっぷり聴けてシャガールの世界を堪能した夜でした。(T.S.)

5月 総会および20周年記念コンサート

「あなたのリアル、私のリアル。」展

6月 特別鑑賞会(昼・夜)

友の会20周年記念懇親会 ★

7月 20周年記念連続講座(第1回)(高橋秀治 愛知県美術館副館長) ★

8月 20周年記念連続講座(第2回)(古田浩俊 愛知県美術館企画業務課長)

9月 20周年記念連続講座(第3回)(村田真宏 愛知県美術館館長)

定例活動

所蔵品管理 のべ16回(毎月第2・第4水曜日に活動)

モニター部会 のべ3回 発送 のべ7回 受付 のべ12回

編集会議 5回 ホームページ 随時更新

これからの展覧会のご案内

デュフィ展

10月9日(水) → 12月7日(日)

ロイヤル・アカデミー展

2015年2月3日(火) → 4月5日(日)

友の会入会のご案内

友の会の詳しい活動内容を知りたい方、入会をご希望の方は、下記までお問合せ下さい。

● 10階愛知県美術館受付

● 友の会事務局(火・木・土 10:00-16:00)

052-971-5511(代) 内線347
tomonokai@aac.pref.aichi.jp

編 集 後 記

「もう20年たったの。いやまだ20年しかたっていないかったの。」

あなたはどちらをお思いでしょうか。そしてこれから先の20年の友の会の歴史は会員一人一人の手で紡ぎだしていくものです。(M.R.)

□編集 松下智子/富永晃一/大矢真美代/喜田泉/小林克敏
塚本薫子/平松章子/水野愛子/宮崎玲子/森健次

□協力 愛知県美術館

□発行 2014年9月

愛知県美術館友の会

〒461-8525 名古屋市東区東桜一丁目13-2

愛知芸術文化センター内

TEL 052-971-5511(代)内線347

FAX 052-971-5617

E-mail tomonokai@aac.pref.aichi.jp

美術館ウェブサイト <http://www-art.aac.pref.aichi.jp>